

第2回 意見シート【今回の会議で伝えきれなかったこと】

■今回の会議で伝えきれなかったこと	事務局（回答）
【こどもワークショップ】 会議で少しお伝えしましたが、補足させていただきます。こどもワークの参加申込みが保護者になっていることは、「こどもの参加の権利」の障壁や侵害につながらないでしょうか？これに限らずほぼ全ての公的支援や申込みなどの窓口はおとなであるのが現状です。 実際に富田林市で、コロナ禍で経済的困窮した若者が勇気を出して市役所に助けを求めて行った際、親を連れてきてと追い返されたと聞きました。こどもの話が聴かれることも、こどもが自ら望み動くことも、様々な場面で入り口にて阻害されています。 しんどい家庭ほど親子関係に問題や親が動けない状況や、親のストレスの吐口がこどもに向かう場合もあり、こどもは諦めて声をあげることができません。	・ご意見をふまえ、保護者による申込制から、こどもによる申込制に変更しました。申込欄に「写真撮影・利用に関する事」「会場への送迎に関する事」について同意欄（チェックボックス）を設けます。
【こどもWEBアンケート・条例検討委員会】 「こどもの参加の権利」をアンケート項目にも入れてほしいと思っていますが10項目に減らす苦勞をきき言い出せませんでした。 こどもワークやこども会議などの流れの中で「参加の権利」は外せないように感じています。今回の権利委員会にも、こどもの委員が入っていたら、おとなもこどもも対等な立場で一緒に考え合えて良かったかもしれないと思っています。条例制定前には、こども会議という別の場で意見を聴くことになっているかと思いますが、おとなが決めたことを聞いてもらって意見を求めるのは、おとな主導になり、基本的に今までのやり方とあまり変わらないように感じます。今年度は無理でも、可能なら来年、条例に関して具体的議論する際には私たちおとなの輪だけではなく、その中にこども委員の存在があればいいなと思います。ぜひご一考いただきたいと思います。	・「こどもの参加の権利」について、今回のアンケートの項目では、「5. 自分の意見を自由に言えること、大人に意見をきいてもらえること（こどもの意見の尊重）」に含まれていると考えています。 ・次年度は、こども会議と条例検討委員会とが直接意見を交換できる場を設けさせていただきます。
【こどもWEBアンケート】 こどもWEBアンケート調査の～おわりに～欄の『チャイルドライン』では、電話だけでなくチャットもしています。 今は小中学生からはチャット相談の方が主流になってきています。できれば、電話やチャットで相談ができます。と記載し、電話やチャットに入れるQRコードを入れていただければと思います。 時間はほぼ電話と同様ですが、チャットやっている日はWEBでチェックしてね！をお願いします。	ご意見をふまえ、アンケートのおわりに、電話以外の相談手段を掲載しました。
【こどもWEBアンケート】 子どもの権利条約の中にもたくさんでてくるのですが、『親』という表現にすごく違和感を感じます。『こども』の定義と同じように、『親』もさまざまな環境下におかれているこどもにとって、定義の仕方が違って、時には傷つく表現ではないかと思っています。例えば、児童養護施設から登校している児童がいる校区では『親』という表現は使わずに低学年なら『おうちの人』、少し大きい児童には『保護者』と言っていました。それからずっと、『親』という表現は使っていません。 中高生用のアンケートの中（資料1-2-問4、問5）などにあった親からたたかれたり、ひどい目にあわされたりしないことを例に挙げてみると、親だけでなく、身近な大人からの被害を受けていたとしても言い出しにくい質問項目になっていないかを考えていきたいです。富田林市の条例は親だけではなく、その他の大人からも守られるという視点を持っていきたいです。（まだアンケートの時点なのでこれからですが） これから、いろんな家庭環境のこどもたちがいる世の中になっていくと思います。富田林市のこども権利条例がどんな子も傷つけず、どんな子も受け入れられるような条例になることを願って、これから会議に参加していきたいです。	・ご意見をふまえ、「親から」を削除しました。また、ひとり親の表現も「家族のことについて（海外に関わりのあること、お金のことなど）」に変更しました。

■今回の会議で伝えきれなかったこと	事務局（回答）
5 【関係団体等アンケート】 ・関係団体等アンケート調査先の「児童発達支援センター」には富田林以外の市のこどもも通ってきていると思うのですが、アンケート趣旨としては大きな枠組みの「こども」に関わっている関係団体に調査するということで（富田林市のこどもに限らない）よろしいでしょうか。この点で考えると放課後等デイサービスも市外の子を含むと思います。 ・会議で他委員の発言にもありましたが、例えば小学校の場合、校長・担任・支援級担任・通級担任・保健室の先生で捉えるこども像がかなり違うと思うので、アンケート結果が「小学校の状況」として一貫しないと思います。記入者欄に立場を記載していただいたとしても集計がしにくいと思うので、アンケート配布の時点である程度の記入者の限定をお願いしても良いのかなと思いました。（校長・管理者）又は（保健室の先生）等。	・関係団体等には市外のこどもが含まれていますが、市外から富田林市に通うこどもの権利も大切にしていきたいと考えています。 ・アンケートの記入者欄に、経験年数を追加しました。また、「貴施設・団体の代表・長の方など、活動全般を管理・把握されている方に回答をお願いします。」と説明を追加することで、回答者層の限定を図ります。

第2回 意見シート【資料3-1_「7.対象施設・団体等」について伺います。
関係団体等アンケートの調査先として入れるべきとお考えになる団体があれば、ご記入ください。】

資料6

	■今回の会議で伝えきれなかったこと	事務局（回答）
1	会議で申し上げた「川西市子どもの人権オmbズパーソン」（ヒアリング調査のみでも可）の他に、「NPO法人子どもセンターぬっく」にもアンケート又はヒアリング調査をして頂ければと思います。資料を別送します。	検討します。
2	学童保育には、是非アンケートしてほしいです。	アンケート調査対象に追加しました。
3	地域の福祉委員会や青少年指導員、通学の見守り隊代表の方とか、地域で子どもに関する活動をされてる方。	アンケート調査対象に追加しました。
4	児童発達支援事業所：（就学前児）の様子が放課後等デイサービスではわからないため。	アンケート調査対象に追加しました。
5	フリースクールや子ども食堂に行っている子、その運営に関わる人など。	アンケート調査対象に追加しました。